

淀川水系流域委員会 様

淀川水系河川 6 ゴルフ場

水無瀬ゴルフ場	高槻ゴルフ倶楽部
樟葉パブリックゴルフコース	京阪ゴルフ倶楽部
牧野パークゴルフ場	淀川ゴルフクラブ

河川敷ゴルフ場の必要性について

1. 「レジャー空間の必要性」

人間には生活及び日々の営みの為の場所が必要です。アフリカ等では人口増加を養う為、原生林が破壊されていて居ります。しかしそれは動物保護区を失わしめる事であり、自然保護と対立するものです。しかし人間の生命は手厚く守らなければなりません。アフリカ等での農地の確保は人間の生存の為不可欠のものであり、動物保護と対立し、難問として諸国につきつけられている課題です。しからばゴルフ場は何故必要であるかといいますと、健康維持の為に必要であると主張致します。日本におきましてのゴルフ人口は下記の現状であります。人間が日々の営みの中でスポーツを行う事、又レジャー等趣味を行う事は不可欠の要素であろうと思われます。自然保護と河川空間の開発につながる行為は、相対するものであります。或る程度は容認されなければならないのではないかとと思われます。

最近スポーツ、レジャー等の多様化によりゴルフの占めるパーセンテージは若干減少して居ります。しかしゴルフ人口は2001年度人口を1992年最多年の人口で割りますと、コースで97.5%1242万5千人、練習場で73.0%、1363万8千人であります。このようにゴルフ人口は減少したといえまだまだ多数を数えて居ります。

それに加えて、ゴルフの場合他のスポーツと違い、ほぼ全員がプレーヤーであるという事であろうと思ひます。他のスポーツで見られる、観戦のみ又は世話役等も加えての愛好者ではないという事だと思ひます。ゴルフに対する批判は種々ありますが、割合一般的に老若男女を問わず又ハンデ等を使用する事により対等に試合（コンペ）を楽しむ事が出来るスポーツはゴルフのみであろうと思われます。現在ゴルフ人口の高齢化が進行して居ります。ゴルフは高齢者に適しているスポーツであります。急激なダッシュ等は必要でない点です。陸上、サッカー、ラグビー、野球、テニス等に比べ比較できない多数の高齢者ゴルファーが存在致して居ります。お年寄りを大切にするのであればゴルフ産業にもっと国の優遇策があつてしかるべきものであると思ひますが如何なものでしょうか。

2. 「河川敷ゴルフ場の絶対的必要性」

(1)電車、市バス、JR等にてアクセス可能な点です。アクセスが近いという事は車を使えない方、特に高齢者ジュニア層、ご婦人等が何とか来る事が出来るゴルフ場であるという事です。スポーツは身近な場所に施設がある事が最重要な事であろうと思われます。

(2)パブリックコースであり、誰でもプレー可能である点です。淀川にある6ゴルフ場は誰が行ってもプレー可能です。

この点にて会員制について申し上げます。

設立時パブリックとして発足したのは、樟葉パブリックゴルフコース、水無瀬ゴルフ場です。セミパブリックとして発足したのは淀川ゴルフ倶楽部です。何がセミパブリックであるかと申し上げますと、友の会会員制度であり、正式な会員制度でないことです。ですから入会金も1万円であり、返済の必要性のない入会金であるという事です。阪神友の会とかと同じ部類のものであるという事です。その後昭和53年度よりの建設省のパブリック化の指導に従い、昭和57年度より完全パブリックとして営業して居ります。その他の3コースは会員制として発足して居りますが、53年度よりの建設省のパブリック化の指導に従い99%以上パブリックとして営業致して居ります。尚詳しいパブリック化の現状は3場の意見提出を待つ事と致します。又この3場につきましてもパブリックとして営業していると言っても異論はないものと思われます。尚会員制の種類について申し上げます。

社団法人会員制

株主会員制

預託金会員制

一部預託金入会金制

以上4種類はゴルフ場にて一般的に会員制と呼んでいるものであり、金額も高額に設定されているものです。

番目の会員制として友の会会員制がありますが、これは金額も安く設定されて居ります。この分については営業的に客の固定化を目的とするもので一般的には会員制の区別には入らないものです。

(3)パブリックコースである為料金が安い点です。

(4)大衆的である点です。一部のメンバーが巾をきかせて居るとか、一部の人を優先的にプレーさせるといったことはありません。

3.「淀川河川ゴルフ場の歴史的経過について」

淀川の6河川ゴルフ場の創立及び経過について申し上げます。

まず最初に創建されましたのは最下流の淀川ゴルフ倶楽部で、昭和24年8月1日オープンして居ります。正式には戦前昭和10年頃より昭和15年迄、学士会ゴルフ場が存在して居ります。余談ですが昭和24年は占領下であります。宝塚ゴルフ倶楽部のメンバーが宝塚ゴルフ倶楽部が進駐地に接收されている為日本人の出来るゴルフ場という事で設立したものであります。当時ゴルフ場は全国に60場しか存在して居りませんでした。次に昭和32年に、京阪電鉄により樟葉パブリックが設立され、又同年度京阪ゴルフ倶楽部が設立されました。次に昭和34年に高槻ゴルフ倶楽部、昭和38年に新日本観光により牧野ゴルフ場、昭和38年に水無瀬ゴルフ場が設立されて居ります。最古の淀川ゴルフ倶楽部は本年にて創立53周年となります、最新の水無瀬ゴルフ場で39周年となります。この間最初より経営は持続され嘗々と築かれて居り、経営の母体に変更になった場は一場も存在致して居りません。創立以来現在に到る迄、木津川台風、ジェーン台風、伊勢湾台風、

第2室戸台風等数多くの台風に合い、毎年繰り返される洪水の復旧作業の負担に耐えて維持されて来たのであり、なま易しい努力によって保たれて来たものではありません。

4. 「淀川河川ゴルフ場の存在の正当性について」

淀川河川6場は正当な方法にて正当なる占用料を支払い永年永代に亘り借用して来ました土地であります事を強く主張するものであります。

何よりも淀川河川6場の必要性を示す数字を示します。

平成12年度6場 利用人員 計411,424人

平成13年度6場 利用人員 計389,139人

利用料金

淀川ゴルフ倶楽部

12ホール 平日 3,000円 土曜3,500円 日祝4,000円

水無瀬ゴルフ場

9ホール 平日 2,500円 土日祝 3,500円

樟葉パブリックゴルフコース

18ホール 平日 7,400円 土日祝10,400円

高槻ゴルフ倶楽部

18ホール 平日 6,500円 土日祝 9,000円

牧野パークゴルフ場

18ホール 平日11,400円 土日祝15,400円

京阪ゴルフ倶楽部

18ホール 平日 6,500円 土日祝 9,500円

5. 「完全な自然河川のみでなくレジャー及びスポーツの部分は是非必要である」

河川公園を含め野球、ゴルフ、テニス、ラグビー等種々のスポーツは是非必要と思われます。それは人間の日々の営みに関係するものであり、スポーツが健康の増進には不可欠のものである点は全ての人が認める所と思われます。特にその中において人踏圧の低い部分としてゴルフ場は不可欠の要素であります。グラウンド、公園等は日曜日に集中しますが、非常に高い人踏圧にさらされ、草木等の生育が不可能になります。

ゴルフ場にてはプレーヤーが比較的均一にラウンドしますので人踏圧が非常に低くに保たれます。従いまして淀川ゴルフ場にては野鳥等が多数見かけられます。

6. 「河川ゴルフ場にて生計を立てている従業員、経営者が多数存在して居ります。」

河川敷ゴルフ場はここで生活の糧を得ている者のより所であります。淀川6場に糧を得ている者は家族も含め多数の生活依存者が存在致して居ります。尚現在は不況で転職先もありません。

我々は零細であり、弱小であります。どうか委員様方に申し上げます。我々の生きて行く手段を奪わないで下さい。又我々零細業者を死地に投げ込む事丈は止めて下さい。私は淀川河川敷ゴルフ場の従業員、経営者を代表してお願い申し上げます。

7. 「公益及び第3セクター営業による県営及び市営ゴルフ場の民営化への動向」

私の知り得る限りにおきまして埼玉県の間営の3場が4年前民営化されて経費を削減し営業を持続致して居ります。全国的にゴルフ場に限った事ではありませんが、公営又は第3セクターによる施設が民営化されて居りますが、経費の面、合理化の面等考えてやむを得ぬ事と想われます。

8. 「地域及び公的活動に対する貢献」

(1) 淀川6場はコースに隣接する堤防の草刈りをゴルフ場負担にて実施して居ります。
(2) 毎年7月の淀川クリーンキャンペーンの日(場夫々に前後に日がづれる場合あり)に従業員の大部分が参加して周辺のゴミ集めを実施します。これはゴミの引き取りの費用迄ゴルフ場の負担にて行います。又常に周辺のゴミの清掃は行って居りますが追いつかない現状です。

又これらのゴミの廃棄にはかなりの金額がかかりますが、全てゴルフ場が支払って行って居ります。これらもゴミの増加に対抗しえずギリギリの状況で何とか頑張っている現状であります。

(3) ゴルファー緑化協力基金(GGG)への参加

淀川の6河川敷ゴルフ場は上記の基金への協力をを行い、プレーヤー一人当たり50円の協力をを行い、現在にても年間1500万円程の協力金を収めて居ります。

9. 最後に申し上げます。この委員会には高水敷の利用者の代表は一人も含まれて居りません。従いましてこの中間答申の結論は失礼ではありますが不公平なものであると言わざるを得ません。我々河川敷ゴルフ場としては我々がほとんど知らない間に作られた中間答申は如何なものかと想われます。非常に失礼ではありますが、最終答申もかたよったものとなる事が、今の時点で予想されます。我々としてはもう少し河川利用のスペース空間を幅広く認めて頂きたく、お願い申し上げます。